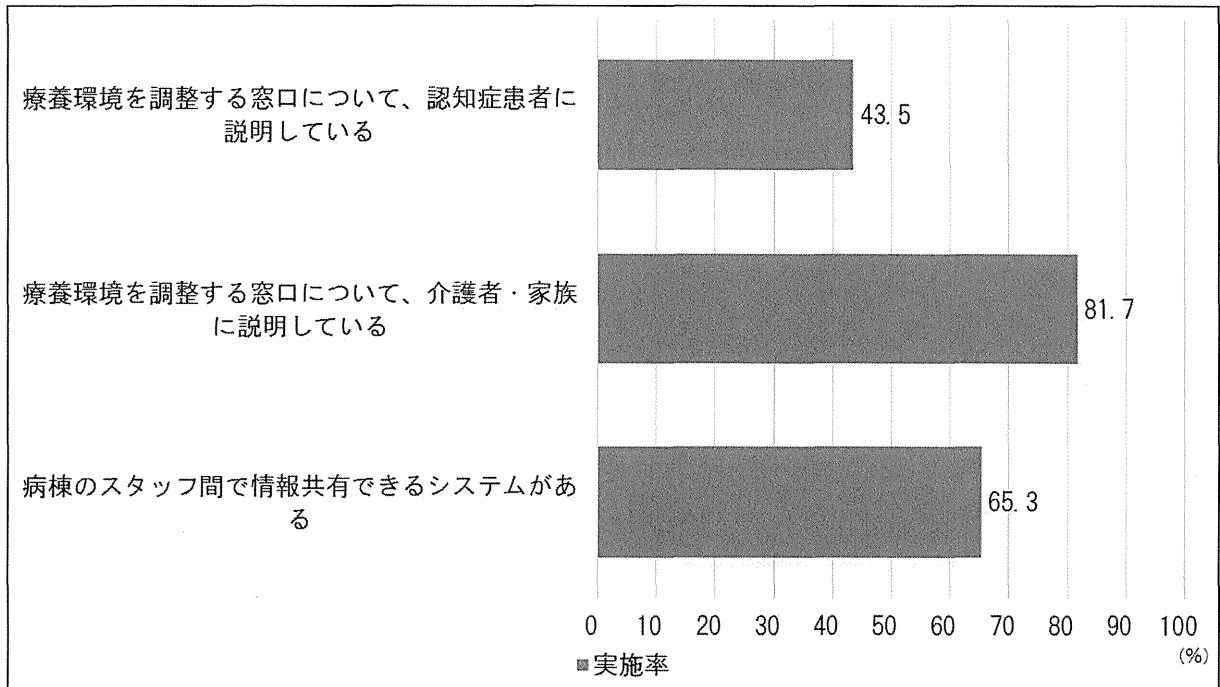
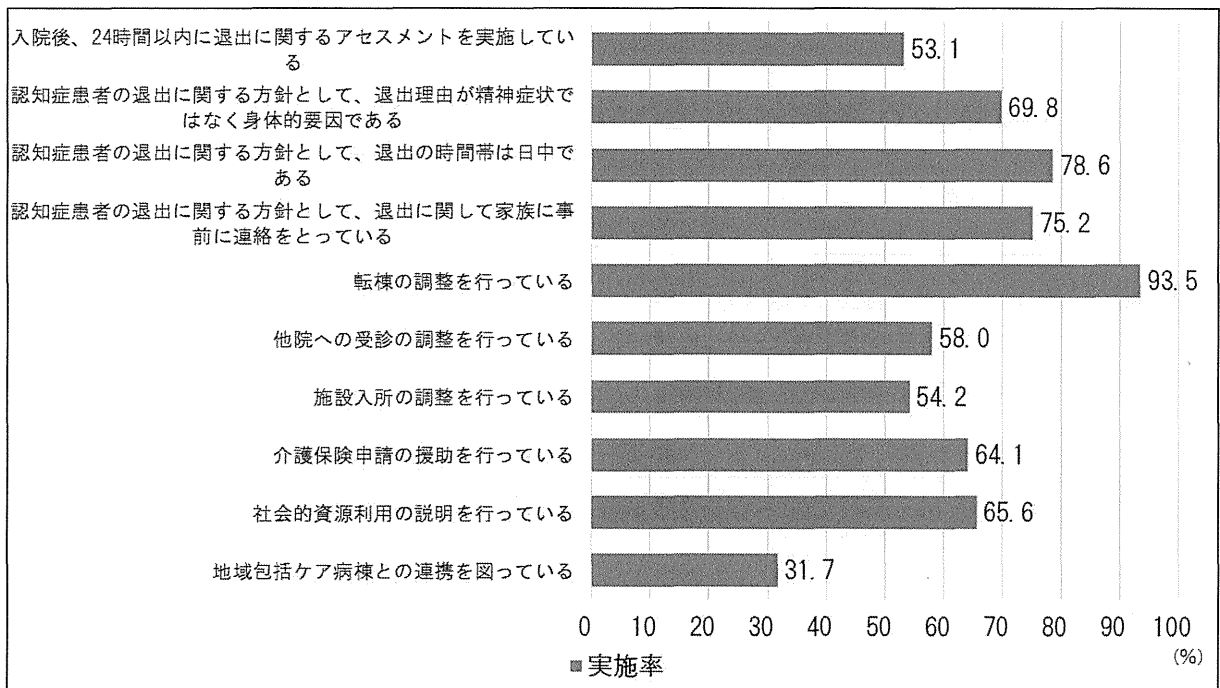


結果6-③ 救急病棟における患者・介護者・親族への情報提供とスタッフ間の連携



結果6-④ 救急病棟からの退出



2-3. 認知症アセスメントシート

認知症アセスメントシート

70歳以上の入院
 治療・ケアを進めるうえでの課題の発生
 (転倒、脱水、食事摂取不良、コンプライアンス不良(服薬管理、セルフケア、リハビリ))

STEP0 まずせん妄の確認

“注意の障害”
 (つじつまが合わない、行動にまとまりがない)
 症状の急激な変動
 意識障害 または 解体した思考

(はい) → せん妄への対応を開始
身体要因の検索・治療

今までに「認知症」の診断を受けている (はい)

STEP1 もしかして認知症? (いいえ)

分野	具体的な反応
記憶	物事を忘れてしまう ○入院している理由、今後の治療のスケジュール ○入院してからの期間 ☞担当医の説明を覚えていますか? ☞家族が代わりに答えていないか注意
複雑性注意	集中して一つの物事に取り組むことができない ☞ちょっとした物音で中断する
実行機能	今まで出来ていたことが出来なくなる ○家族がいないときに熱が出たらどうするか、詳しく聞いてみよう ☞身だしなみやベッドサイド ☞リハビリ、ケア、食事は自主的にできますか? ☞シャワー、リモコン、電話などの道具を使えますか? ☞買い物は独りでできますか?(買い忘れ、買い間違い、おつりの計算ができない)
社会的認知	自分の置かれている状況を正しく理解できない ☞まわりに様子をつかんだり配慮したりできますか?(場の雰囲気、状況など)
視空間認知	方向や距離感がつかめない ☞部屋を間違える、ベッドに斜めに寝る
言語	言葉がうまく使えない ○代名詞が多い?(あれ、それ)
IADL確認	薬はしっかりと使えていますか?(飲み間違い・飲み忘れ、頓用の使用) 食事の準備はできますか? 独りでバスや電車を利用できますか?(切符を買う、乗り換える) 電話をかける、金銭管理、洗濯掃除

STEP2 身体の苦痛は? (必ず自分の目で確認! 全身を見直してみよう)

注意したい症状	観察項目
疼痛	<input type="checkbox"/> 痛みの評価(尺度) <input type="checkbox"/> 苦しそうな表情・泣く・叫ぶ <input type="checkbox"/> かばうしぐさ <input type="checkbox"/> 血圧・脈拍の変化、発汗
低栄養・脱水	<input type="checkbox"/> 食事・飲水量を実際に確認 <input type="checkbox"/> 体重変化の確認 <input type="checkbox"/> 口腔のトラブル・嚥下・義歯・かみ合わせ <input type="checkbox"/> 食事の食べ方を実際に観察 (注意がそれる、気が散る、蓋を取らない、ハシが使えない) <input type="checkbox"/> 口唇、舌、腋窩の乾燥、皮膚のハリ
昼夜のリズム (睡眠)	<input type="checkbox"/> 夜はしっかりと眠れているか <input type="checkbox"/> 夜間頻尿 <input type="checkbox"/> 日中の過度な眠気
便秘	<input type="checkbox"/> 排便のリズム(経過表で確認) <input type="checkbox"/> 腹部の張りや圧痛 <input type="checkbox"/> 食事量の減少

不快に感じる環境では？

- 音や光（外からの光、反射）などの刺激 ルート類 見当識を失いやすい 大勢の人

STEP3 対応を工夫しよう

認知機能障害のある方（注意が持続しにくい）との接し方の工夫

環境

静かな環境

声をかける

- 視野に入って声をかける
目線は低く
普段よりも一歩踏み込んで
手で顔を隠さない、影のかからないよう
目線をつかんでから話を始める
複数の刺激を組み合わせる

話す

- 会話は短く、具体的に
ゆっくり、はっきり
話題は一つずつ
大事なところは繰り返す
ゆっくり待つ（10秒ルール）
話をさえぎらない

項目	認知機能障害への配慮の工夫
記憶障害	<input type="checkbox"/> 一日のスケジュールを見えるところに置く <input type="checkbox"/> 親しみを感じている持ち物は見つけやすいところに置く
視空間認知障害	<input type="checkbox"/> 複数の刺激を使う <input type="checkbox"/> 照明を明るくする、床の反射を減らす <input type="checkbox"/> コントラストをつける
実行機能障害	<input type="checkbox"/> 分かりやすい環境（時間：不意打ちをしない、空間：目印をつける、人：顔写真を置く、ケアの予定表を置く） <input type="checkbox"/> 選択肢の提示は簡単にわかりやすく <input type="checkbox"/> 行動をうながす、声をかける <input type="checkbox"/> 言語以外のメッセージにも気を配る（家族にサポートを依頼する）
言語障害	<input type="checkbox"/> 要点は書く、メモに残す <input type="checkbox"/> 図で示す

STEP4 評価を共有しよう

チーム内で共有	<input type="checkbox"/> “できること・できないこと”、“好きなこと・嫌いなこと” <input type="checkbox"/> 継続して評価することを確認 <input type="checkbox"/> 治療を進めるうえで予測されること・対応したほうがよいこと
病棟以外のスタッフと共有	<input type="checkbox"/> 検査や処置で注意をすること、対応上の工夫
コンサルテーションの依頼	<input type="checkbox"/> 認知機能評価と対応、今後の支援について相談

STEP5 連携・退院支援

退院だけでなく安心して過ごすために必要なことを考える

項目	検討する内容
退院後の治療計画	<input type="checkbox"/> 退院後に予測されること <input type="checkbox"/> 服薬管理（定期内服と頓用、服薬確認・支援） <input type="checkbox"/> 緊急時対応（熱発時、痛みが悪化した時に独りで対処できるか） <input type="checkbox"/> 食事の準備・脱水の予防
支援スタッフとの共有	看護サマリ、診療情報提供、申し送りに書こう <input type="checkbox"/> 認知症、せん妄の状況の共有 <input type="checkbox"/> 観察を続けたほうがよいこと <input type="checkbox"/> 家族の支援体制（認知症の可能性を伝えましたか？）
認知症・せん妄のフォロー体制	<input type="checkbox"/> 家族・介護者への初期支援（情報提供と引継ぎ） <input type="checkbox"/> 外来担当医、在宅医への申し送り <input type="checkbox"/> 専門機関の受診（認知症疾患センター、精神科、神経内科、など）

2-5. アンケート用紙

2-5-1. 認知症の知識

I 認知症に関して、正しいと思うものには○を、間違っていると思うものには×を付けてください。

- 1 認知症は、65歳以上の高齢者人口の15%にみられる
- 2 急性期病院では、医療依存度の高い高齢者が多く、軽度の認知症に比べ重度の認知症が多い
- 3 認知症は、脳に何らかの障害が起きることにより発症する
- 4 認知症は、急速に進行する
- 5 認知症は、患者にとって精神心理的な苦痛を伴うものである
- 6 認知症の診断基準として、認知機能障害、IADLの障害が挙げられ、せん妄とうつ病も含まれる
- 7 認知症は、アルツハイマー型認知症が最も多い
- 8 全ての認知症患者に中核症状がみられる
- 9 認知症による物忘れと加齢によるもの忘れは一緒である
- 10 認知症患者は、予測が立てられない、段取りを組むことができないなどの症状がみられる
- 11 認知症患者は、形態や模様の認識が障害されるが、物体との距離について判断することは可能である
- 12 認知症患者の食欲低下の要因として、失行や注意障害がある
- 13 認知症患者の疼痛は過大評価されている
- 14 認知症患者の痛みや苦痛の評価は、患者の行動からも評価することが重要である
- 15 認知症患者は、服薬の自己管理が難しくなる
- 16 認知症患者は、緊急時の対応がとれなくなる
- 17 認知症患者は、治療同意能力が無いため、家族の意向を優先にする

I 認知症に関して、正しいと思うものには○を、間違っていると思うものには×を付けてください。(つづき)

- 18 認知症患者は、意思決定の障害として、記憶ができないこと、比較ができないこと、今後の見通しを想像できないことなどが挙げられる []
- 19 BPSD(随伴症状/周辺症状)は、中核症状による環境への不適応の結果起こるものであり、重度認知症で必ず起こる []
- 20 BPSD(随伴症状/周辺症状)の中で、徘徊が最も多い []
- 21 BPSD(随伴症状/周辺症状)の原因に苦痛や不快感がある []
- 22 身体拘束は、BPSDのケアの1つである []
- 23 身体拘束は、安全を確保するためやむを得ず実施する場合は、誤嚥や深部静脈血栓の予防に努める []
- 24 せん妄は、意識障害である []
- 25 せん妄の薬物療法として、抗精神病薬が推奨されており、副作用としてアカシジアに注意する必要がある []
- 26 認知症患者の家族は、介護負担、スティグマ、意思決定代理などに伴う苦痛を感じている []
- 27 認知症患者の家族への支援として、情緒的サポートと情報提供が重要である []
- 28 認知症患者の退院調整は、治療が終了してから行う []
- 29 認知症患者の治療やケアの方針について、看護師間、多職種間で情報を共有する []
- 30 地域包括支援センターは、認知症の診断から身体の病気も含めた診療など、地域における支援体制を構築する機関である []

次のページにお進みください

2-5-2. 認知症の自信

II 認知症に関する以下の質問に対し、どれくらい自信がありますか？
あてはまる数字に○を付けてください。

1) 入院時に認知症に気づくこと

全く自信がない 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 とても自信がある

2) 認知症とせん妄を鑑別すること

全く自信がない 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 とても自信がある

3) 記憶障害により、入院理由や治療のスケジュールについて忘れていないか確認すること

全く自信がない 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 とても自信がある

4) 実行機能障害により、今まで出来ていたことが出来ているか確認すること

全く自信がない 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 とても自信がある

5) 社会的認知障害により、自分の置かれている状況を正しく理解できているか確認すること

全く自信がない 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 とても自信がある

6) 視空間認知障害により、方向や距離感がつかめているか確認すること

全く自信がない 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 とても自信がある

7) 認知症患者の痛みについて、表情や行動、自律神経症状を確認すること

全く自信がない 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 とても自信がある

8) 認知症患者の睡眠について、日中の活動状況や眠気など確認すること

全く自信がない 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 とても自信がある

9) 認知症患者の便秘について、腹部の張りや圧痛、排便のリズムなど確認すること

全く自信がない 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 とても自信がある

10) 認知症患者の低栄養や脱水について、食事量や飲水量、体重変化など確認すること

全く自信がない 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 とても自信がある

11) 認知症患者の症状や程度に合わせて、会話はゆっくりはっきりと話すようにすること

全く自信がない 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 とても自信がある

II 認知症に関する以下の質問に対し、どれくらい自信がありますか？
あてはまる数字に○を付けてください。（つづき）

- 12) 認知症患者の症状や程度に合わせて、視野に入って声をかけるようすること
全く自信がない 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 とても自信がある
- 13) 認知症患者の症状や程度に合わせて、考えの流れを注目し、細かい言葉にこだわらないこと
全く自信がない 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 とても自信がある
- 14) 認知症患者の症状や程度に合わせて、1日のスケジュールを決めて書くこと
全く自信がない 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 とても自信がある
- 15) 認知症患者の症状や程度に合わせて、転倒・転落を予防すること
全く自信がない 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 とても自信がある
- 16) 認知症患者の症状や程度に合わせて、ルート類やチューブ類の自己抜去を予防すること
全く自信がない 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 とても自信がある
- 17) 認知症患者の意向を踏まえうえて、意思決定支援を行うこと
全く自信がない 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 とても自信がある
- 18) 認知症患者の意向を踏まえうえて、丁寧な説明を行うこと
全く自信がない 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 とても自信がある
- 19) やむ負えず身体拘束を行う場合は、ガイドラインに準じて行うこと
全く自信がない 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 とても自信がある
- 20) やむ負えず身体拘束を行う場合は、安全を確保するための取り得る代替方法がないことをチームで確認しその上で必要最小限に限って行うこと
全く自信がない 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 とても自信がある
- 21) 認知症患者の家族に対し、情緒的サポートを提供すること
全く自信がない 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 とても自信がある
- 22) 認知症患者の家族に対し、家族自身のメンタルヘルスを守るための知識を提供すること
全く自信がない 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 とても自信がある

II 認知症に関する以下の質問に対し、どれくらい自信がありますか？
あてはまる数字に○を付けてください。(つづき)

23) 認知症患者の家族に対し、認知症に関する疾病や医療、生活に関する情報を提供すること

全く自信がない 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 とても自信がある

24) 認知症患者の症状や程度について、多職種で情報を共有すること

全く自信がない 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 とても自信がある

25) 認知症患者の治療やケアの方針、今後予測される症状について多職種で情報を共有すること

全く自信がない 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 とても自信がある

26) 認知症患者の検査や処置で注意することについて、多職種で情報を共有すること

全く自信がない 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 とても自信がある

27) 家族の支援体制について、退院サマリーにまとめること

全く自信がない 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 とても自信がある

28) 退院後のADLやセルフケアについて、退院サマリーにまとめること

全く自信がない 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 とても自信がある

29) 退院後の支援に必要な内容や調整事項について、退院サマリーにまとめること

全く自信がない 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 とても自信がある

30) 認知症による行動障害(徘徊・不穏)について、退院サマリーにまとめること

全く自信がない 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 とても自信がある

31) 退院後の緊急時の対応について、退院サマリーにまとめること

全く自信がない 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 とても自信がある

Ⅲ. 研究成果の刊行に関する一覧表

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍（外国語）

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
Kaneko M, et al	Mental Care for Anger	Maurice G. Penrod and Scott N. Paulk	Psychology of Anger: New Research	Nova Science Publishers, Inc	New York	2013	151-159
Shimizu K. et al.	Treatment of Anxiety and Stress-Related Disorders.	Luigi Grassi, Micol Riba	Psychopharmacology in Oncology and Palliative Care	Springer		2014	129-144
Ogawa A	Long-term cognitive function.	Eduardo Bruera IH, Charles F von Gunten, Tatsuya Morita	Textbook of Palliative Medicine and Supportive Care, Second Edition.	CRC Press	New York	2015	1269-75
Akechi T, et al	Depression/Anxiety	Eduardo Bruera IH, Charles F von Gunten, Tatsuya Morita	Textbook of Palliative Medicine and Supportive Care, Second Edition.	CRC Press	New York	2015	691-702

書籍（日本語）

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
小川朝生	癌患者の心理的反応・サイコオンコロジー	小川修、岡田裕作、荒井陽一、寺地敏郎、松田公志、笈善行、羽瀧友則	ベッドサイド泌尿器科学改定第4版	南江堂	東京	2013	617-20
小川朝生	意識障害（せん妄）	日本緩和医療薬学会	緩和医療薬学	南江堂	東京	2013	80-1
小川朝生	がん領域における抑うつ の現状と対応	村松公美子、伊藤弘人	身体疾患患者 精神的支援 ストラテジー	NOVA 出版	東京	2013	23-7
小川朝生	入院患者の不眠に注意	小川修、谷口充孝	内科医のための 不眠診療は じめの一步	羊土社	東京	2013	27-32
小川朝生	せん妄を発症する疑い がある場合	小川修、谷口充孝	内科医のための 不眠診療は じめの一步	羊土社	東京	2013	156-7
小川朝生	せん妄になってしまった 場合	小川修、谷口充孝	内科医のための 不眠診療は じめの一步	羊土社	東京	2013	158-60

明智龍男	がん患者の抑うつの評価と治療.		NAGOYA MEDICAL JOURNAL		名古屋	2013	51-55
明智龍男	一般身体疾患による気分障害	山口徹, 北原光夫, 福井次矢(編)	今日の治療指針	医学書院	東京	2013	868
明智龍男	精神症状マネジメント概論	日本緩和医療薬学会(編)	緩和医療薬学	南江堂	東京	2013	79
井上真一郎	色々な不眠への対処～こんなときどうする？薬剤に依存的な場合	小川朝生、谷口充孝	内科医のための不眠診療はじめの一步	羊土社	東京	2013	161-163
井上真一郎	色々な不眠への対処～こんなときどうする？過量服用の既往がある場合	小川朝生、谷口充孝	内科医のための不眠診療はじめの一步	羊土社	東京	2013	164-165
井上真一郎	色々な不眠への対処～こんなときどうする？睡眠中にパニック発作を起こした場合	小川朝生、谷口充孝	内科医のための不眠診療はじめの一步	羊土社	東京	2013	172-174
中嶋真一郎、谷向 仁	サイコオンコロジー	後明郁男、真野徹	1ランクアップをめざす！がん疼痛治療	南山堂	東京	2013	232-263
中嶋真一郎、谷向 仁	不安障害	日本緩和医療薬学会	緩和医療薬学	南江堂	東京	2013	84-85
谷向 仁	睡眠障害	日本緩和医療薬学会	緩和医療薬学	南江堂	東京	2013	85-86
谷向 仁	認知症 (BPSD) の患者	小川朝生・谷口充孝	内科医のための不眠診療はじめの一步誰も教えてくれなかった対応と処方のコツ	羊土社	東京	2013	99-101
谷向 仁	精神疾患 (不安・抑うつ) の患者	小川朝生・谷口充孝	内科医のための不眠診療はじめの一步誰も教えてくれなかった対応と処方のコツ	羊土社	東京	2013	102-105
谷向 仁	幻覚や妄想をもつ患者	小川朝生・谷口充孝	内科医のための不眠診療はじめの一步誰も教えてくれなかった対応と処方のコツ	羊土社	東京	2013	109-110

谷向 仁	急性のストレスに伴う不眠の患者	小川朝生・谷口充孝	内科医のための不眠診療はじめの一步誰も教えてくれなかった対応と処方のコツ	羊土社	東京	2013	111-113
木澤義之, 森田達也, 新城拓也, 梅田恵, 久原幸	3ステップ実践緩和ケア	木澤義之, 森田達也, 新城拓也, 梅田恵, 久原幸	3ステップ実践緩和ケア	青海社	東京	2013	156-7
小川朝生	自信がもてる! せん妄診療はじめの一步 誰も教えてくれなかった対応と処方のコツ	小川朝生	自信がもてる! せん妄診療はじめの一步 誰も教えてくれなかった対応と処方のコツ	羊土社	東京	2014	
小川朝生	7. せん妄への対応	小川朝生, 内富庸介	ポケット精神腫瘍学 医療者が知っておきたいがん患者さんの心のケア	創造出版	東京	2014	61-80
小川朝生	8. 認知症への対応	小川朝生, 内富庸介	ポケット精神腫瘍学 医療者が知っておきたいがん患者さんの心のケア	創造出版	東京	2014	81-90
小川朝生	医療従事者の心理的ケア	日本緩和医療学会	専門家をめざす人のための緩和医療学	南江堂	東京	2014	322-9
小川朝生	せん妄	日本緩和医療学会	専門家をめざす人のための緩和医療学	南江堂	東京	2014	244-53
小川朝生	うつ病と適応障害	日本緩和医療学会	専門家をめざす人のための緩和医療学	南江堂	東京	2014	235-43
明智龍男	精神症状の基本	小川朝生, 内富庸介	医療者が知っておきたいがん患者さんの心のケア	創造出版	東京	2014	53-60
明智龍男	精神症状 (抑うつ・不安、せん妄)	川越正平	在宅医療バイブル	日本医事新報社	東京	2014	340-346
明智龍男	危機介入	堀川直史, 吉野相英, 野村総一郎	これだけは知っておきたい精神科の診かた、考え方	羊土社	東京	2014	145-146
明智龍男	支持的精神療法	堀川直史, 吉野相英, 野村総一郎	これだけは知っておきたい精神科の診かた、考え方	羊土社	東京	2014	42-144

明智龍男	主要な精神症状のマネジメントとケア	恒藤暁, 内布敦子	系統看護学講座別巻 緩和ケア	医学書院	東京	2014	210-232
清水研, 小川朝生, 明智龍男, et al	うつ病と適応障害	恒藤暁, 明智龍男, 荒尾晴恵, et al	専門家をめざす人のための緩和医療学	南江堂	東京	2014	235-243
奥山徹, 明智龍男, et al	睡眠障害	恒藤暁, 明智龍男, 荒尾晴恵, et al	専門家をめざす人のための緩和医療学	南江堂	東京	2014	254-258
大谷弘行, 明智龍男, et al	心理的反応	恒藤暁, 明智龍男, 荒尾晴恵, et al	専門家をめざす人のための緩和医療学	南江堂	東京	2014	278-285
吉内一浩, 明智龍男, et al:	コミュニケーション	恒藤暁, 明智龍男, 荒尾晴恵, et al	専門家をめざす人のための緩和医療学	南江堂	東京	2014	286-294
石田真弓, 明智龍男, et al	家族ケアと遺族ケア	恒藤暁, 明智龍男, 荒尾晴恵, et al	専門家をめざす人のための緩和医療学	南江堂	東京	2014	313-321
井上真一郎	VII. クロザピンの副作用への対応 漿膜炎が生じると聞きました	藤井康男	クロザピン100のQ&A 治療抵抗性への挑戦	星和書店	東京	2014	229-232
上村恵一	【緩和ケアの症状マネジメント up to date】 向精神薬の選び方 up to date	森田達也	緩和ケア	青海社	東京	2014	341-345
上村恵一	終末期せん妄 終末期における治療抵抗性のせん妄への対応	堀川直史	精神科治療学	星和書店	東京	2014	495-500
谷向 仁、他	認知機能改善薬	日本臨床精神薬理学会 専門医制度委員会(編)	臨床精神薬理学テキスト 改訂第3版	星和書店	東京	2014	276-289
金子真理子	血液・造血器疾患を持つ成人を理解するために	溝口秀昭, 泉二登志子, 川野良子	新体系 看護学全書 成人看護学 血液・造血器	メジカルフレンド社	東京	2014	2-9
金子真理子	血液・送血器疾患が患者に及ぼす影響と看護の役割	溝口秀昭, 泉二登志子, 川野良子	新体系 看護学全書 成人看護学 血液・造血器	メジカルフレンド社	東京	2014	174-180
金子真理子	がん看護概論	林和彦	看護実践のためのがん看護	医学映像社	東京	2014	DVD
清水 研 他			心的外傷後成長ハンドブック	医学書院	東京	2014	

清水 研	うつ病と適応障害	日本緩和医療学会	専門家をめざす人のための緩和医療学	南江堂	東京	2014	235-242
清水 研	睡眠障害	日本緩和医療学会	専門家をめざす人のための緩和医療学	南江堂	東京	2014	254-258
木村洋輔、 木澤義之	食欲不振と終末期における輸液. 第3章緩和医療学.	川越正平	在宅医療バイブル	日本医事新報社	東京	2014	324-333
木澤義之、 荒尾晴恵	1. 教育, 第4章教育・研究.	特定非営利法人日本緩和医療学会	専門家をめざす人のための緩和医療学	南江堂	東京	2014	330-336
阿部泰之、 木澤義之	アドバンス・ケア・プランニングと臨床倫理	長江弘子	看護実践にかすエンド・オブ・ライフケア	日本看護協会出版会	東京	2014	38-44
近藤 伸介	世界を結ぶ認知症施策	明日の医療プロジェクト研究会編	アルツハイマー病の国家的取り組み	中外医学社	東京	2014	
小川朝生	2-1 チームとしてどうアセスメントするかー特にがん治療医と緩和ケア医に必要なアセスメント	上村恵一、 小川朝生、 谷向仁、 船橋英樹	がん患者の精神症状はこう診る 向精神薬はこう使う	株式会社じほう	東京	2015	7-14
小川朝生	基本30 希死念慮	木澤義之、 齊藤洋司、 丹波嘉一郎	緩和ケアの基本66とアドバンス44ー学生・研修医・これから学ぶあなたのために	株式会社南江堂	東京	2015	112-14
小川朝生	基本31 せん妄	木澤義之、 齊藤洋司、 丹波嘉一郎	緩和ケアの基本66とアドバンス44ー学生・研修医・これから学ぶあなたのために	株式会社南江堂	東京	2015	115-17
小川朝生	がんと不安への対応	公益財団法人長寿科学振興財団	高齢者の不安とその対策ー経済・健康・孤独ー	公益財団法人長寿科学振興財団	愛知	2015	75-83
小川朝生	CHAPRER5 緩和ケアの概要	小川朝生、 篠崎和弘	認知症の緩和ケア 診断時から始まる患者と家族の支援	新興医学出版社	東京	2015	98-110
小川朝生	CHAPRER6 認知症の苦痛	小川朝生、 篠崎和弘	認知症の緩和ケア 診断時から始まる患者と家族の支援	新興医学出版社	東京	2015	111-116

小川朝生	CHAPRER7 認知症における身体症状の評価に関する原則	小川朝生、 篠崎和弘	認知症の緩和ケア 診断時から始まる患者と家族の支援	新興医学出版社	東京	2015	117-138
小川朝生	CHAPRER18 選択,意思決定能力,ケア及び法律	小川朝生、 篠崎和弘	認知症の緩和ケア 診断時から始まる患者と家族の支援	新興医学出版社	東京	2015	437-462
小川朝生 他	巻末付録	小川朝生、 篠崎和弘	認知症の緩和ケア 診断時から始まる患者と家族の支援	新興医学出版社	東京	2015	575-593
明智龍男	サイコオンコロジー	佐藤隆美, 藤原康弘, 古瀬純司, 大山優	がん治療エッセンシャルガイド改訂3版	南山堂	東京	2015	198-203
明智龍男	コンサルテーション・リエゾン精神医学	尾崎紀夫, 朝田隆, 村井俊哉	標準精神医学	医学書院	東京	2015	177-188
上村恵一	手術後・ICU症候群・透析移植後関連症候群	福井次夫 高木誠 小室一成	今日の治療指針 2015	医学書院	東京	2015	955-956
上村恵一	チームメンバーとの情報共有/チームメンバーとのよいコミュニケーションの重要性	木澤義之 齋藤洋司 丹波嘉一郎	緩和ケアの基本66とアドバンス44	南江堂	東京	2015	174-175
上村恵一	移植後の精神科での対応	原田浩 後藤憲彦	腎移植の病診連携	医薬ジャーナル社	東京	2015	150-151
上村恵一	がん患者の精神症状はこう診る、向精神薬はこう使う	上村恵一 小川朝生 谷向仁 船橋英樹	がん患者の精神症状はこう診る、向精神薬はこう使う	じほう	東京	2015	2-6
谷向仁	適切なケアの提供	武田雅俊 (監修), 篠崎和弘, 小川朝生 (編集),	認知症の緩和ケア 診断時から始まる患者と家族の支援	新興医学出版社	東京	2015	481-515
谷向仁	日本語版EuroQol(日本語版EQ-5D)	山内俊雄, 鹿島晴雄 (総編)	精神・心理機能評価ハンドブック	中山書店	東京	2015	472-473
谷向仁	抗精神病薬	上村恵一, 小川朝生, 谷向仁, 船橋英樹(編)	がん患者の精神症状はこう診る、向精神薬はこう使う	じほう	東京	2015	155-165
金子真理子	リエゾン精神看護	森千鶴, 田中留伊	これからの精神看護学	ピラールプレイス	東京	2015	134-143
金子真理子	精神症状のアセスメントと看護援助,	金子真理子 原案・監修	看護実践のためのがん看護,	医学映像教育センター	東京	2015	DVD版

金子眞理子	チーム医療におけるがん看護と倫理的課題,	金子眞理子 原案・監修	看護実践のためのがん看護,	医学映像教育センター	東京	2015	DVD版
清水 研	うつ病・適応障害	上村恵一・ 小川朝生・ 谷向仁・ 船橋英樹	がん患者の精神症状はこう診る向精神薬はこう使う	じほう	東京	2015	30-45
清水 研	スピリチュアルに生かす posttraumatic growth (外傷後成長)の視点	森田達也・ 木澤義之・ 新城拓也	続 エビデンスで解決!緩和医療ケースファイル	南江堂	東京	2016	142-146
木澤義之他	はじめてのがん疼痛ケア	木澤義之	はじめてのがん疼痛ケア	メディカ出版	大阪府	2015	全項
木澤義之他	緩和ケアの定義 緩和ケアを開始する時期	木澤義之 齊藤洋司 丹波嘉一郎	緩和ケアの基本66とアドバンス44	南江堂	東京都	2015	2-5
木澤義之他	入院患者の痛みの診かた	木澤義之	レジデントノート	羊土社	東京都	2015	672-739

雑誌 (外国語)

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Kondo K, <u>Ogawa A</u> , et al	Characteristics associated with empathic behavior in Japanese oncologists.	Patient Educ Couns	93 (2)	350-3	2013
<u>Akechi T</u> , <u>Kizawa Y</u> , et al	Assessing medical decision making capacity among cancer patients: Preliminary clinical experience of using a competency assessment instrument.	Palliat Support Care	21	1-5	2013
Asai M, <u>Shimizu K</u> , <u>Ogawa A</u> , <u>Akechi T</u> , et al	Impaired mental health among the bereaved spouses of cancer patients.	Psychooncology	22 (5)	995-1001	2013
Fielding R, <u>Akechi T</u> , et al.	Attributing Variance in Supportive Care Needs during Cancer: Culture-Service, and Individual Differences, before Clinical Factors.	PLOS ONE	8 (5)	e65099	2013
Furukawa TA, <u>Akechi T</u> , et al	Cognitive-behavioral therapy modifies the naturalistic course of social anxiety disorder: Findings from an ABA design study in routine clinical practices.	Psychiatry Clin Neurosci	67 (3)	139-47	2013
Inagaki M, <u>Akechi T</u> , et al.	Associations of interleukin-6 with vegetative but not affective depressive symptoms in terminally ill cancer patients.	Support Care Cancer	21 (8)	2097-106	2013
Kawaguchi A, <u>Akechi T</u> , et al.	Group cognitive behavioral therapy for patients with generalized social anxiety disorder in Japan: outcomes at 1-year follow up and outcome predictors.	Neuropsychiatr Dis Treat	9	267-75	2013

Nakaguchi T, <u>Akechi T</u> , et al.	Oncology nurses' recognition of supportive care needs and symptoms of their patients undergoing chemotherapy.	Jpn J Clin Oncol	43 (4)	369-76	2013
Nakano Y, <u>Akechi T</u> , et al.	Cognitive behavior therapy for psychological distress in patients with recurrent miscarriage.	Psychol Res Behav Manag	6	37-43	2013
<u>Tanimukai H</u> , et al.	An Observational Study of Insomnia and Nightmare Treated With Trazodone in Patients With Advanced Cancer.	Am J Hosp Palliat Care	30(4)	359-362	2013
<u>Tanimukai H</u> , et al.	Paclitaxel induces neurotoxicity through endoplasmic reticulum stress	Biochem Biophys Res Commun	437(1)	151-155	2013
Okamoto Y, <u>Tanimukai H</u> , et al.	Can Gradual Dose Titration of Ketamine for Management of Neuropathic Pain Prevent Psychotomimetic Effects in Patients With Advanced Cancer?	Am J Hosp Palliat Care	30(5)	450-454	2013
Sakagami Y, <u>Tanimukai H</u> , et al	Involvement of endoplasmic reticulum stress in tauopathy.	Biochem Biophys Res Commun	430(2)	500-504	2013
Ohi K, <u>Tanimukai H</u> , et al	The AKT1 gene is associated with attention and brain morphology in schizophrenia.	World J Biol Psychiatry	14(2)	100-113	2013
<u>Kaneko M</u>	Nursing Roles and Issues in Psycho-oncology :An investigation using supportive interview and cognitive behavioral therapy.	Journal of clinical Trials,	doi.org/10.4172/2167-0870, S1-002		2013
<u>Kaneko M</u> , et al	Current Status and Issues in Nurses' Roles in Counseling Cancer Patient-Perception of Certified Nurse Specialists in Cancer Nursing.	Journal of Tokyo Women's Medical University	83(2)	79-85	2013
<u>Kaneko M</u> , et al	Requirements with regard to nursing consultation by mental health consultation liaison nurses and suggestions for their intervention.	Journal of Nursing & Care	doi:10,4172/2167-1168		2013
<u>Hirai K</u> , et al.	Structural equation modeling for implementation intentions, cancer worry, and stages of mammography adoption	Psychooncology	22	2339-46	2013
Asai M, <u>Shimizu K</u> , et al	Impaired mental health among the bereaved spouses of cancer patients. 2013	Psycho oncology.	22(5)	995-1001	2013
<u>Shimizu K</u>	Effects of Integrated Psychosocial Care for Distress in Cancer Patients	Jpn J Clin Oncol.	43(5)	451-457	2013

Hamano J, <u>Kizawa Y</u> , et al	Usefulness of Palliative Prognostic Index for patient with advanced cancer in home care setting.	Am J Hosp Palliat Care	30(3)	264-7	2013
<u>Kizawa Y</u> , et al	Specialized palliative care services in Japan: a nationwide survey of resources and utilization by patients with cancer.	Am J Hosp Palliat Care.	30(6)	552-5	2013
Yamamoto R, <u>Kizawa Y</u> , et al	The palliative care knowledge questionnaire for PEACE: reliability and validity of an instrument to measure palliative care knowledge among physicians.	J Palliat Med.	16(11)	1423-8	2013
Morita T, <u>Hirai K</u> , <u>Kizawa Y</u> , et al	Effects of a programme of interventions on regional comprehensive palliative care for patients with cancer: a mixed-methods study.	Lancet Oncol.	14(7)	638-46	2013
Morita T, <u>Kizawa Y</u> .	Palliative care in Japan: a review focusing on care delivery system.	Curr Opin Support Palliat Care	7(2)	207-15	2013
Iwamitsu Y, <u>Kizawa Y</u> , et al	Troubles and hardships faced by psychologists in cancer care.	Jpn J Clin Oncol.	43(3)	286-93	2013
Nakazawa Y, <u>Kizawa Y</u> , et al	One-year Follow-up of an Educational Intervention for Palliative Care Consultation Teams.	Jpn J Clin Oncol.	44(2)	172-9	2014
Nakanotani. T, <u>Akechi. T</u> , <u>Ogawa. A.</u> et al.	Characteristics of elderly cancer patients' concerns and their quality of life in Japan: a Web-based survey.	Jpn J Clin Oncol	44(5)	448-55	2014
Yokoo. M, <u>Akechi. T</u> , <u>Ogawa. A.</u> et al.	Comprehensive assessment of cancer patients' concerns and the association with quality of life.	Jpn J Clin Oncol	44(7)	670-6	2014
Shibayama. O, <u>Akechi. T</u> , <u>Ogawa A.</u> et al.	Association between adjuvant regional radiotherapy and cognitive function in breast cancer patients treated with conservation therapy.	Cancer Med	3	702-709	2014
<u>Akechi T</u> , et al	Contribution of problem-solving skills to fear of recurrence in breast cancer survivors	Breast Cancer Res Treat	145	205-10	2014
Azuma H, <u>Akechi T</u>	What domains of quality of life are risk factors for depression in patients with epilepsy?	Austin journal of psychiatry and behavioral sciences	1	4	2014
Azuma H, <u>Akechi T</u>	Effects of psychosocial functioning, depression, seizure frequency, and employment on quality of life in patients with epilepsy	Epilepsy Behav	41	18-20	2014

Banno K, <u>Akechi T</u> , et al	Neural basis of three dimensions of agitated behaviors in patients with Alzheimer disease	Neuropsychiatr Dis Treat	10	339-48	2014
Katsuki F, <u>Akechi T</u> , et al	Multifamily psychoeducation for improvement of mental health among relatives of patients with major depressive disorder lasting more than one year: study protocol for a randomized controlled trial	Trials	15	320	2014
Momino K, <u>Akechi T</u> , et al	Psychometric Properties of the Japanese Version of the Concerns About Recurrence Scale (CARS-J)	Jpn J Clin Oncol	44	456-62	2014
Morita T, <u>Akechi T</u> , et al	Symptom burden and achievement of good death of elderly cancer patients	J Palliat Med	17	887-93	2014
Nakanotani T, <u>Akechi T</u> , et al	Characteristics of elderly cancer patients' concerns and their quality of life in Japan: a Web-based survey	Jpn J Clin Oncol	44	448-55	2014
Reese JB, <u>Akechi T</u> , et al	Cancer patients' function, symptoms and supportive care needs: a latent class analysis across cultures	Qual Life Res			2014
Shibayama O, <u>Akechi T</u> , et al	Association between adjuvant regional radiotherapy and cognitive function in breast cancer patients treated with conservation therapy	Cancer Med	3	702-9	2014
Shiraishi N, <u>Akechi T</u> , et al	Relationship between Violent Behavior and Repeated Weight-Loss Dieting among Female Adolescents in Japan	Evid Based Ment Health	9	e107744	2014
Shiraishi N, <u>Akechi T</u> , et al	Brief psychoeducation for schizophrenia primarily intended to change the cognition of auditory hallucinations: an exploratory study	J Nerv Ment Dis	202	35-9	2014
Suzuki M, <u>Akechi T</u> , et al	A failure to confirm the effectiveness of a brief group psychoeducational program for mothers of children with high-functioning pervasive developmental disorders: a randomized controlled pilot trial	Neuropsychiatr Dis Treat	10	1141-53	2014
Yamauchi T, <u>Akechi T</u> , et al	Death by suicide and other externally caused injuries after stroke in Japan (1990-2010) : the Japan Public Health Center-based prospective study	Psychosom Med	76	452-9	2014
Yamauchi T, <u>Akechi T</u> , et al	Death by suicide and other externally caused injuries following a cancer diagnosis: the Japan Public Health Center-based Prospective Study	Psychooncology	23	1034-41	2014

Yokoo M, <u>Akechi T</u> , et al	Comprehensive assessment of cancer patients' concerns and the association with quality of life	Jpn J Clin Oncol	44	670-6	2014
Kawaguchi A, <u>Akechi T</u> , et al	Hippocampal volume increased after cognitive behavioral therapy in a patient with social anxiety disorder: a case report	The Journal of Neuropsychiatry and Clinical Neurosciences	26(4)	E4-5	2014
Shiraishi N, <u>Akechi T</u> , et al	Contribution of repeated weight-loss dieting to violent behavior in female adolescents	PLOS ONE	9(9)	e107744	2014
<u>Tanimukai H</u> , et al	Sleep problems and psychological distress in family members of patients with hematological malignancies in the Japanese population	Ann Hematol	93(12)	2067-2075	2014
Omi T, <u>Tanimukai H</u> , et al	Fluvoxamine alleviates ER stress via induction of Sigma-1 receptor	Cell Death Dis	5	e1332	2014
Yoshida S, Amano K, Ohta H, Kusuki S, Morita T, Ogata A, <u>Hirai K</u> .	A comprehensive study of the distressing experiences and support needs of parents of children with intractable cancer.	Jpn J Clin Oncol.	10.1093/jjco/hyu140		2014
<u>Tanimukai H</u> , <u>Hirai K</u> , Adachi H, Kishi A.	Sleep problems and psychological distress in family members of patients with hematological malignancies in the Japanese population.	Annals of hematology	10.1007/s00277-014-2139-4		2014
Takei Y, Ogata A, Ozawa M, Moritake H, <u>Hirai K</u> , Manabe A, et al.	Psychosocial difficulties in adolescent and young adult survivors of childhood cancer.	Pediatrics international	10.1111/ped.12495		2014
Shinjo T, Morita T, <u>Hirai K</u> , et al	People Accept Opioids: Role of General Attitudes Toward Drugs, Experience as a Bereaved Family, Information From Medical Professionals, and Personal Beliefs Regarding a Good Death	J Pain Symptom Manage	10.1016/j.jpainsymman.2014.04.015		2014
Kuroda Y, Iwamitsu Y, Miyashita M, <u>Hirai K</u> , et al.	Views on death with regard to end-of-life care preferences among cancer patients at a Japanese university hospital.	Palliative & supportive care	10.1017/S147895151400056X	1-11	2014
Nakajima K, Iwamitsu Y, Matsubara M, Oba A, <u>Hirai K</u> , et al.	Psychologists involved in cancer palliative care in Japan: A nationwide survey.	Palliative & supportive care	10.1017/S1478951514000029		2014
<u>Shimizu K</u> . et al.	Barriers of healthcare providers against end-of-life discussions with pediatric cancer patients.	Jpn J Clin Oncol.	44(8)	729-735	2014
Hamano J, <u>Kizawa Y</u> , Maeno T, Nagaoka H, Shima Y, Maeno T.	Prospective clarification of the utility of the palliative prognostic index for patients with advanced cancer in the home care setting..	Am J Hosp Palliat Care.	31(8)	820-4	2014